

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	新潟ウェルネス健康増進センター	
建設地	新潟県新潟市西区大字北場字下田割1185番3外20筆	
用途地域	準工業地域	
建物用途	事務所	
竣工年	2024年2月 予定	
敷地面積	16,844.76 m ²	
建築面積	1,146.66 m ²	
延床面積	3,144.02 m ²	
階数	地上3F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2022年11月1日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B-	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{47.6}{53.8} = 0.8$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	4.0		バリアフリー計画	4.0
			維持管理	5.0
			設備の更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.1		耐震・免震・制震・制振	3.0
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	2.3		節水	3.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	1.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	1.5		生物環境の保全と創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	3.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- バリアフリー新法に適合。耐久性のある建材を使用。
- 特定天井をつくらない
- 既存棟との間は浸透性のある緑化ブロックを採用
- サッシ面はLow-E複層ガラス、縦型ルーバー、ロールスクリーンにより日射を抑制
- 節水型の衛生器具を採用
- 既存棟との間は緑化ブロックを採用
- 陰影のある外観の形成

CASBEE 新潟

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築) 2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟ウェルネス健康増進センター	階数	地上3F
建設地	新潟県新潟市西区大字北塚字下田割1185番3外20筆	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	285 人
地域区分	5地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年11月1日
敷地面積	16,845 m ²	作成者	堀川 猛
建築面積	1,147 m ²	確認日	2022年11月1日
延床面積	3,144 m ²	確認者	堀川 猛



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.8</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.3</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.2</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 2.8</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 2.9</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.6</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 2.9</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>東側立面は建物のファサード(正面)であり高速道路からの視認性がよい為、清潔感と繊細さ、そして法人と健康増進センターのイメージを向上させる外観としています。具体的には門型フレームと繊細なルーバーにより直射日光を防ぐ日除けになると共に、外観に奥行きと陰影を生み出し、高級感を演出します。</p>	<p>その他</p> <p>外構の工事範囲は増築建物廻りのみの最小限としています。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>省エネや新しい生活様式に配慮し、開閉できる窓を沢山設けます。1階2階共用待合室は、東側に大きなサッシのある、明るく開放的なつくりとします。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>各階は利用者が安心して利用できるように、基本的に男女別のエリア分けを行います。待合室はホテルのような高級感と落ち着きのある空間とします。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>隣接する既存事務棟との視線がお互いに気にならないよう、南側及び北側立面は開口部を抑えながら、縦方向を強調したストライプ状のスマートな外観とします。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>熱負荷の大きい開口部は極力抑えた計画とします。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>有害な物質を使用しない計画とします。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>既存事務棟との間の空間は緑化ブロックを敷設し、ヒートアイランド化を抑制すると共に、少しでも雨水を浸透させる計画としています。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される